

生きる喜びを
Let's create Iwate as a place to live happily.
感じられる岩手に！

いわて
県政
レポート
2025
夏号

岩手県議会議員

ハクセル 美穂子

MIHOKO
HUXEL

ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 雫石町生まれ
◎家族／アメリカ人の夫、4人の息子(高3、高2、高1、中1)
◎職業／英会話教室経営
◎趣味／読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴／雫石町立御神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・
盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
◎経歴／平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選
令和5年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区3期目の当選

f ハクセル美穂子
オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>



2024.9-10月 9月定例会 決算特別委員会もありました

2024.11月 雫石町総合芸術祭にフラワーアレンジメント作品を出展

2024.11月13～15日 県内市町村要望調査

●一戸町 ●北上市 ●西和賀町 ●二戸市

毎年恒例の「いわて県民クラブ・無所属の会」県内市町村要望調査において、今年は一戸町、北上市、西和賀町、二戸市を担当しました。人口減少による地域行政経営への影響が深刻化しています。上水道・下水道の広域的な連携など、県が更なるリーダーシップを発揮する必要性の高まりを切に感じました。



一戸町



北上市



西和賀町



二戸市

2024.12月 12月定例会

2024.12月24日 総務委員会現地調査

●矢巾町 ●盛岡市

総務委員会は、消防防災と警察を管轄している委員会です。今回は、岩手県立総合防災センターの運用状況と岩手県警察学校で若手警察官の育成状況を調査しました。

2025.11月28～30日 観光・交通政策特別委員会現地調査

●神奈川県三浦市 ●長野県塩尻市

今回は、神奈川県三浦市の神奈川版ライドシェア「かなライド@みうら」の取り組みと、長野県塩尻市の官民共創による自動運転実証実験とデジタル人材の活用について調査しました。自治体の予算を投入せずに実施するライドシェア事業の難しさと、自動運転など先進技術の実証実験を民間事業者と共に実行していくメリットについて多くを学びました。また、どちらの自治体においてもプロジェクトをリードする人材が事業成功の鍵となっており、このような職員育成についても大変勉強になりました。



神奈川県三浦市で神奈川版ライドシェアについて説明を受けた



長野県塩尻市で実証実験されている自動運転用のバス

2025.2月 2月定例会

予算特別委員会で総括質疑に登壇しました！ 詳しくは裏面のアセンブリーニュース【拡大バージョン】でお伝えします。

Assembly News! 拡大バージョン!

毎年2月の定例会で、次年度の予算を審議する【予算特別委員会】が開かれています。

予算特別委員会も、決算特別委員会と同様に【総括質疑】という「知事に対して直接質問ができる機会」が設けられています。予算総括質疑の質問時間は、決算と同じように会派を構成する人数の割合で決まります。私が所属する「いわて県民クラブ・無所属の会」には21分間の質疑時間が割当られ、今回は私が会派を代表して総括質疑に登壇しました。

今号では、予算総括で質疑した岩手県の政策課題についてお知らせします。



質問その①

ソフトパワー戦略推進事業
これまで通り続けるのか？

令和6年度のソフトパワー戦略推進事業は、「コミックいわて」の発行が主な事業内容でした。開始からすでに14年が経ち、事業内容のマンネリ化が著しいと決算特別委員会でも指摘された事業です。サブカルチャーに詳しい知事が出版した県独自のマンガ本ということで、発売当初は3万部も売れ人気があった「コミックいわて」でしたが、最近では毎年1000部程度の販売部数となってしまっていました。

岩手県は国内のみならず海外でも人気が高い漫画作家さんを輩出しています。そのおかげで、岩手県内へ聖地巡礼にお越しくださる漫画ファンが一定数おられます。では、そういったファンの皆さんが楽しめるような受け入れ態勢は？という点、市町村それぞれが取組んでいるという現状です。いまだに、県内の関係市町村が一体的に取組むというような受け入れ環境には至っていません。

聖地巡礼の成功例のひとつである熊本県では、熊本県出身の人気漫画家のアニメ化されたキャラクターを銅像にして県内へ設置しました。すると、その銅像を見るためにたくさんのアニメファンが熊本県を訪れるようになりました。さらに、県内各地に配置された銅像を見るために、ファンが県内を周遊するようになりました。このようにして熊本県ではアニメ聖地巡礼が確立されていきました。熊本地震後の2018年にこの取組みが始まり、熊本県庁前の銅像1体だけで年間55,000人が訪れ、26億円の経済効果をもたらしたとも言われています。

もし、岩手県が引き続きソフトパワー戦略推進事業を行うのであれば、熊本県の例のように交流人口の増加や県内市町村への周遊観光につながるような事業へ発展させるべきです。県民利益に結び付かないのであれば、厳しい県財政を鑑みて、事業の廃止をするべきと私は考えるとの意見を述べました。

この質問に対して知事は、これまで発刊されたコミックいわてをデジタル版に切り替えるとともに、アニメツーリズム協会との連携など、県内周遊観光に寄与するように事業内容を見直し取組むと答弁しました。

令和7年度岩手県予算は？ 予算特別委員会で総括質疑に登壇しました！

質問その②

岩手の観光政策は
このままでいいのか？

令和7年度予算では、インバウンド観光と輸出で世界に開かletたいわてを創っていくと宣言しています。ここ数年間「いわての強み」と「いわての魅力」を活かして取組むといったものの、従来の政策との違いが私には見えません。

岩手県は四国が丸ごと入るほど広く、多種多様な自然環境が存在しています。岩手県の観光戦略は、この豊かな自然環境を十分に生かした持続可能なものであるべきです。

ウインタースポーツをはじめ、トレッキング、サップ、カヌー、サイクリングにマラソンなど、様々なスポーツに適した岩手県内での体験活動を観光商品化し、何度も足を運んでいただけるよう観光政策の幅を広げていく取組みが求められています。そのためには、観光とスポーツの部局を一体化し、更なる連携を図っていく必要があるのではないかと意見を述べました。

知事からは、観光とスポーツ・文化の部局再編について前向きに考える旨の答弁がありました。



質問その③

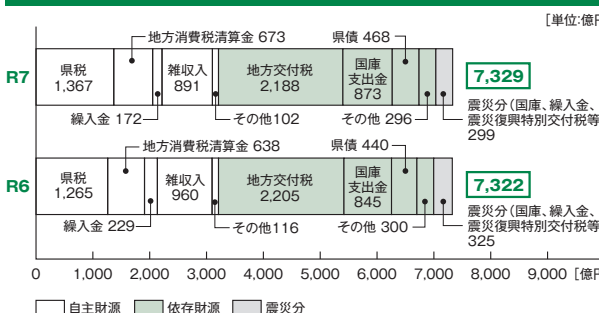
農産物の輸出拡大で、
「世界に開かletたいわて」に
する前にやるべきことは？

令和7年度は海外輸出の拡大のために、知事が自ら米国でトップセールスを行う予定です。第一次産業が盛んな岩手県ではありますが、農産物の生産量が少なめであることがこれまでなかなか輸出が拡大しなかった要因です。ですから、これから農産物の輸出拡大に取組むのであれば農産物の生産振興に係る政策にも力を入れて、十分な生産量を確保していかなければなりません。販売に力をいれたところで売るのが十分になく、知事のトップセールスを無駄にすることのないよう、先を見据えた取組みが求められています。

岩手県内には、優秀な営農指導員が地域の農業生産力を上げている事例があります。このようなスーパー営農指導員の指導技術を別品種や県内全域に普及拡大していくことが大切です。岩手県は農業改良普及員という農業指導の専門職員を採用していますので、専門職員の皆さんがその力を十分に発揮できるような取組みを行ってほしいのです。農業普及センターと農業団体が連携し、高品質な営農指導を行う体制を構築して、岩手の農業生産力を向上させるべき時が来ています。ぜひ、県には農業指導の一翼を担い、積極的な農業振興策を進めてほしいと意見を述べました。



【岩手県】歳入予算の状況



質問その④

若年女性の県外流出を
食い止める! 女性に選ばれる
岩手県になるためには？

昨年、岩手県の転出超過（県内に移住した人と県外へ移住した人の差引）が4,873人になりました。そのうち、1,445人は20～24歳の女性でした。転出超過の約3割が若年女性という状況です。そのような中で令和7年度予算に取り上げられている政策は、県内在住の女性向けの支援策がほとんどです。女性の県外流出による社会減を止めるためには、県外への進学・就職を選んだ、または選ぶとしている女性の幅広い意見を聞き、県内進学・就職を決定する要因を把握し、それらを反映した政策を立てることが大事です。若年女性のニーズを把握する調査の重要性をどのように考えているのか質問しました。

また、令和6年度に県が実施した【女性デジタル人材育成プロジェクト事業】は、定員30名のところ120名もの女性が応募するほど需要の高い事業となりました。令和7年度は定員を50名に増やし事業を行う予算が計上されました。せっかく需要のある事業ですから、さらに定員を増やし多くの女性がデジタルスキルを身につけて県内で正社員登用されるよう、今後の予算拡充を求めました。この事業も含め、県の事業は国からの交付金を活用しているものも多いため、国から交付される予算の範囲内で事業を行っているケースが多くあります。でも、本当に必要とされている事業であれば、県の一般財源を投入しても実行するべきではないかと意見を述べました。

質問その⑤

知事の政務秘書の給与を
公費で支払う必要性について

最後に、岩手県知事の政務秘書問題です。現在、知事は2名の副知事のほかに、知事の政治に関連する業務を補佐する政務秘書を1名、公費で雇用しています。

政務秘書の業務内容や出退勤、給与額はすべて知事が管理しています。知事の代わりに国政選挙の応援などにも出ているようですが、具体的な仕事内容はわかりません。

公務で大変忙しい知事の政務を補佐する政務秘書を雇用することには反対しませんが、業務内容や出退勤すら明らかにされていない政務秘書の給与を公費で賄うことには賛成できません。公費で賄われているならば、その勤務実態を明らかにするべきであるし、明らかにできなのであれば私費で雇用し、その分を女性のデジタル人材育成などの需要に対して予算が十分ではない事業へ充当するべきと意見を述べました。

以上、私の予算総括質疑内容をご紹介します!

ハクセル美穂子、次回の一般質問は6月定例会です。6月30日午後1時から登壇します。どなたでも県議会本会議を傍聴することができますので、ご興味のある方はぜひ一度足をお運びください。お待ちしております!

【岩手県】歳出予算の状況

